

令和7年度 第1回磐田の未来を語る会 懇談記録

日 時：令和7年11月23日（日）
10時半～正午

場 所：ワークピア磐田 第2会議室
参加人数：4名

参加者の主な意見	市長コメント
<p>○40歳を過ぎて磐田に戻ってきたが、快適に過ごせる場所が少なく感じる。母校を訪れても昔の面影が全くないのは寂しい。公共施設の建て替えに際し、少なくとも100年使えるものを作っていきますか。公共施設は木造で作り、100年以上つかうということを提案したい。歴史を見ても市民に愛されよく使われることが長く使い続けられる条件だと思う。</p>	<p>○共感する。見付学校は大事に残した例。山形県南陽市の先進的な木造建築の例もあるが、コストの面や設計を書ける人が少ないといった課題もある。グリーンインフラの推進を重点施策に掲げているが、職員の意識はまだまだ。市民の意識も大事ななので、是非協力いただきたい。</p>
<p>○地元の自治会で歴史研究会の一員として活動している。各自治会の地域に残っている史跡、文化財等がある程度形にして残してほしい。</p>	<p>○市では「磐田の文化財」冊子をリニューアルした。地域の歴史を丁寧に見直している人たちがいることがありがたい。合併により地域の特色がなくなってきたという声も聞き、職員を含めて自分たちの地域の価値に触れる機会は増やしていきたい。</p>
<p>○移民の問題は日本の文化がなくなってしまうのではないかという危機感がある。農家も人手不足で同世代の仲間は経営者世代だが、法人化した会社を外国に売ろうという話も聞く。</p>	<p>○問題意識は共有するが、極端には触れたくない。異文化を吸収しながらアップデートされてきた歴史がある。土地や資産の関係は一定のルール作りが必要で、相続の問題もある。</p>
<p>○デマンド型乗合タクシー「お助け号」は素晴らしい。 ○労働人口として高齢者の活用を磐田市でもっと考えてほしい。</p>	<p>○概ね同感する。協力者に地域通貨・ポイントなどの謝礼といった、お金でないもので回せる良い仕組みがないかは研究したい。先進事例がないわけではない。</p>